

「福井ふるさと元気宣言」推進に関する政策合意

私は、知事の政策スタッフとして、「福井ふるさと元気宣言」に掲げられた政策等を実現するため、次に掲げる施策・事業について重点的に実施することを西川一誠知事と合意します。

平成30年4月

福井県知事 西川 一 誠
土木部長 大槻 英 治

30年度の施策

1 美しい県土、楽しく便利なまちの形成

◇高速交通ネットワークの完結促進【部局連携】

○中部縦貫自動車道の整備促進

- ・大野油坂道路については、北陸新幹線敦賀開業に合わせた全線開通を国に強く要請します。
- ・大野油坂道路の大野東～和泉間については、全4本のトンネルのうち、着手済みの荒島第2トンネル（仮称）をはじめ3本のトンネル工事の推進と、和泉トンネル（仮称）工事の着手を国に要請し、早期整備を目指します。
- ・大野油坂道路の和泉～油坂間については、着手済みの新長野トンネル（仮称）工事の推進と、川合トンネル（仮称）および大谷トンネル（仮称）工事の着手を国に要請し、早期整備を目指します。
- ・大野油坂道路の大野～大野東間については、取得率が約3割となっている用地取得を更に進め、早期の工事着手を国に要請します。

○若狭さとうみハイウェイの機能強化

- ・舞鶴西～敦賀間については、事故による通行止めの状況を踏まえた重要な区間への付加車線の設置等を国と高速道路株式会社に要請し、早期の４車線化を目指します。
- ・時間短縮効果などの利便性向上について、県内外のイベントにおける情報発信や関係団体への働きかけを行い、若狭さとうみハイウェイの利活用促進を図ります。

◇道路・港湾の重点整備と利用促進【部局連携】

○主要道路・県境道路の整備

- ・県民の安全と利便性、地元や市町の協力体制なども考慮し、優先度をつけて計画的に整備を進め、国体・障スポ競技会場へのアクセス道路などを供用します。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
主要道路・県境道路 の整備 (累計)	1 箇所	4 箇所 (5 箇所)	3 箇所 (8 箇所)	7 箇所 (15 箇所)

30 年度供用箇所

- ・国道 8 号（福井バイパス） あわら市笹岡～坂井市丸岡町玄女 L=5.4km
- ・国道 416 号（大日峠道路） 勝山市横倉～県境 L=3.8km
- ・国道 476 号（西部アクセス道路） 大野市城町～犬山 L=0.7km
- ・国道 476 号（持越バイパス） 池田町持越 L=1.0km
- ・芦原丸岡線 あわら市田中々～重義 L=1.1 km
- ・丸岡川西線（布施田橋） 坂井市春江町布施田新～福井市布施田町 L=1.7km
- ・武生米ノ線 越前市小野町～勝蓮花町 L=1.9km

- ・福井港丸岡インター連絡道路については、工事に向けた用地取得を進めます。
- ・北陸新幹線と一体的に整備する福井森田丸岡線については、新九頭竜橋の上部工事を進めます。
- ・北陸新幹線の南越駅（仮称）と国道 8 号を、敦賀駅と国道 8 号バイパスをそれぞれ結ぶアクセス道路については、用地取得および工事を進めます。
- ・現在 2 車線となっている福井・石川県境の国道 8 号石川県加賀市熊坂町～あわら市笹岡間 8.7 km については、4 車線化を石川県と協力して国に要請し、早期着手を目指します。また、国道 8 号福井バイパスのあわら市笹岡～坂井市丸岡町玄女間については、全区間において工事を促進し、国体・障スポまでの一日も早い供用を目指します。

- ・国道 8 号南越前町～敦賀市間については、特に対策が急がれる区間（敦賀市挙野～田結間）の早期の工事着手を国に要請し、早期整備を目指します。
- ・県境道路である国道 417 号冠山峠道路については、岐阜県とともに工事促進を国に要請し、北陸新幹線敦賀開業に合わせた開通を目指します。

○敦賀港・福井港の機能強化

- ・敦賀港では、鞠山南地区国際物流ターミナルの機能を強化するため、国の岸壁整備スケジュールに合わせた埋立工事を進めます。
- ・九頭竜川からの流入土砂対策として福井港北防砂堤の整備を進めます。

◇電車・バス・自転車の利活用拡大【部局連携】

○福鉄・えち鉄の高機能化

- ・えちぜん鉄道については、6 月 24 日に高架線路での運行を開始し、その後、残る福井口踏切の線路撤去や交差道路の整備を進めます。

○サイクリングコースの計画的整備・延伸

- ・観光拠点や眺望ポイントをめぐる道路に自転車マークなどの路面標示を行い、サイクリングコースのネットワーク化を進めます。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
サイクリングコースの整備	31km	21km	52km	20km
(累計)	(189km)	(210km)	(262km)	(282km)

2 原子力・エネルギーの確かな将来展望と地域振興

◇「安全最優先」の原子力行政【部局連携】

○原子力災害制圧道路等の整備促進

- ・竹波立石縄間線（敦賀市立石～敦賀原発 0.6 km）、音海中津海線（高浜町音海～小黒飯 1.6 km）、佐田竹波敦賀線（美浜町佐田～菅浜 2.1 km）の供用を目指します。

3 日本一の安全・安心（治安充実から治安万全へ）

◇あらゆる災害対応を迅速第一【部局連携】

○除雪対策の徹底

- ・平成30年2月の豪雪を踏まえて、記録的な豪雪に対応するための課題を整理し、道路雪対策基本計画の見直しを進めます。
- ・除排雪機械の増強や、国等関係機関のカメラ画像を「雪みち情報ネットふくい」において提供するなど、県管理道路の除雪対策および情報提供の強化を進めます。
- ・国、高速道路株式会社等の関係機関の連携強化による、除排雪機械等の機動力の増強や広域的な迂回路の確保等を国へ要請するとともに、冬期の交通確保対策のための会議や現地での想定訓練などを通して、幹線道路の除雪対策の強化を求めています。
- ・緊急医療施設周辺道路、最重点除雪路線、緊急輸送道路などについて順次消雪施設を整備します。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
消雪施設の整備	6km	3km	5km	4km
(累計)	(349km)	(352km)	(357km)	(361km)

○インフラ施設の長寿命化対策

- ・定期的な点検結果に基づき橋梁、トンネル、ダム、河川の排水機場、砂防施設、下水道施設、港湾施設などの維持・補修を行い、長寿命化対策を進めます。

○足羽川ダムの建設促進

- ・足羽川ダムについては、仮排水路トンネル工事を進め、早期にダム本体工事に着工するよう国に強く要請し、平成38年度（2026年度）の完成を目指します。

○河川の災害対策

- ・河内川ダムについては、ダム管理設備の整備を進め、試験湛水を行います。
- ・吉野瀬川ダムについては、付替えの必要な県道武生米ノ線を完成し、仮排水路トンネル工事に着手します。
- ・浸水被害が発生した河川、想定氾濫区域内に家屋が集中している河川などを重点的に整備します。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
河川の重点的整備	990m	1,660m	1,100m	900m
(累計)		(2,650m)	(3,750m)	(4,650m)

- ・迅速な住民避難につながる情報提供を行うため、洪水により甚大な浸水被害が生じるおそれのある河川に監視カメラを増設するとともに、洪水時のみの観測に特化した簡易な水位計の設置を進めます。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
監視カメラの増設	2 箇所	2 箇所	3 箇所	2 箇所
(累計)	(18 箇所)	(20 箇所)	(23 箇所)	(25 箇所)

○土砂・雪崩災害対策の推進

- ・平成29年度の台風の影響などで発生した土砂崩れや、豪雪による大規模な雪崩災害に対して、復旧工事を進めます。
- ・土砂災害警戒区域において土砂災害から保全する地区を増やすため、砂防堰堤、急傾斜地崩壊対策施設などの整備を進めます。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
土砂災害対策施設の整備	5 地区	4 地区	5 地区	6 地区
(累計)	(973 地区)	(977 地区)	(982 地区)	(988 地区)

- ・迅速な住民避難につなげるため、市町と連携し土砂災害を想定した避難訓練を継続して実施します。

○空き家対策の強化

- ・中古住宅の流通を促進するため、ふくい空き家情報バンクへの登録を促します。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
ふくい空き家情報 バンクへの登録	102 戸/年	226 戸/年	204 戸/年	210 戸/年

◇「安全・安心ふくい」確立プラン【部局連携】

○通学路や高齢者の安全確保

- ・自転車利用者や歩行者の安全を確保するため、市町の教育委員会や警察署と協議し、自転車安心通行帯の整備を進めます。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
自転車安心通行帯 の整備	-	5km	7km	6km
(累計)	(12km)	(17km)	(24km)	(30km)

4 人口減少に歯止めをかける徹底戦略

◇日本一の「結婚・子育て応援社会」【部局連携】

○ふくいの住まい総合支援

- ・移住者の定住、子育て世帯の住環境向上、多世帯の同居・近居に必要なとなる一戸建て住宅の購入、リフォーム工事への助成を行います。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
住宅購入、リフォーム 工事への助成	65 戸/年	157 戸/年	154 戸/年	130 戸/年

5 豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に

◇景観を県民資産に【部局連携】

○「わがまち景観」の保全・継承

- ・道路周辺の景観を改善するため、道路標識柱等の集約化を行うとともに、標識の撤去を進めます。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
道路標識等の集約 化・撤去 (累計)	14 箇所	25 箇所 (39 箇所)	15 箇所 (54 箇所)	16 箇所 (70 箇所)

- ・国体・障スポの開催や北陸新幹線の県内開業に向け、観光地や街並みなどの良好な景観づくりを推進するため、屋外広告物条例等の改正により基準に適合しなくなった広告物について、国体・障スポまでの支援制度の活用を促すなど、さらに丁寧な説明を行うことにより、広告主や広告事業者による撤去・改修を進めます。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
屋外広告物の撤去・ 改修 (累計)	-	49 件	200 件 (249 件)	351 件 (600 件)

- ・歩行者、自転車利用者が多く、十分な滞留スペースがない福井市のまちなかの交差点において、角地の空き地を休憩場所などの快適な空間として有効に活用します。
- ・北陸新幹線の県内開業に向け、都市緑化の意識高揚を図り、県下全域で花や緑があふれる美しいまちづくりを推進するため、全国「みどりの愛護」のつどいの平成32年度(2020年度)開催を目指して誘致を進めます。
- ・足羽川において水辺に親しむイベント、川遊び、釣り体験などの親水活動の定着を図るとともに、史実に近い和舟による毛矢の操舟体験を実施します。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
足羽川での親水イ ベント参加者	6,060 人/年	7,000 人/年	7,100 人/年	7,200 人/年

- ・北陸新幹線等大型工事により生じる建設発生土の搬出入状況の確認を行うとともに、想定している土量、土質、時期などの変更に対応した需給調整を行い、土砂採取による山の切り崩しを抑制し景観を保全します。
- ・国体・障スポに向け、競技会場やアクセス道路周辺、鉄道から見える河川において、伐木、浚渫を重点的に実施するとともに、浚渫土砂の工事間流用や土質改良を行い、有効活用を図ります。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
河川の伐木	4km/年	4km/年	15.5km/年	16km/年
河川の浚渫	4.0 万 m ³ /年	4.1 万 m ³ /年	4.8 万 m ³ /年	4.8 万 m ³ /年

- ・国体・障スポに向け、競技会場やアクセス道路において、植樹柵の修繕や舗装補修等を行うとともに、地域住民や企業等との共働により、道路の除草や植栽を行う道守活動を推進します。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
道守活動団体	64 団体/年	64 団体/年	81 団体/年	85 団体/年

○無電柱化の推進

- ・景観の向上や防災の観点から、電力事業者や通信事業者の理解を得ながら、電線の地中化などによる無電柱化を進めます。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
無電柱化	0.5km	1.0km	1.2km	1.0km
(累計)	(17.0km)	(18.0km)	(19.2km)	(20.2km)

○三里浜緑地の利活用推進

- ・身近に緑豊かな自然を楽しめるよう、樹林地内の下草刈りや枝打ちにより緑地内の見通しをよくするなどの環境改善を行い、地域住民等に親しまれ、利用しやすい環境づくりを進めます。

6 福井から人材育成

◇産業人材の育成・誘致システム

○防災意識の向上と建設業における将来の担い手確保

- ・ 防災意識の向上のため、住民を対象とした土砂災害講習会や小学生を対象とした防災出前授業を開催します。
- ・ 建設業に対する関心を高め、インフラ整備・保全の重要性の啓発を図るため、建設業と共働し、将来の担い手となる学生向けの現場説明会や出前授業を開催します。

7 高速交通時代にブランド・観光オンリーワン戦略

◇観光フロンティア・福井【部局連携】

○100万人観光地の創出

- ・ 「道の駅」については、大野市の「結の故郷（仮称）」および勝山市の「恐竜溪谷ジオパーク（仮称）」の造成工事に着手します。また、越前市の「道の駅」については、用地取得を進めます。**チャレンジ施策**
- ・ 「道の駅」をより魅力的な観光や地域振興の拠点とするため、スタンプラリーの実施や「道の駅」が共同で開催するイベントへの支援等を行い、利用客の拡大を図ります。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (見込)	30 年度 (目標)
「道の駅」の利用客 (暦年)	380 万人/年	450 万人/年	460 万人/年	460 万人/年